

# マリンストア ニュース

YAMAHA No.27 '82-4-5

## 西郷さん 明治十年

(1877)、西南の役で全国の人心が動揺していたとき、火星が地球に大接近した。もっとも近づいた9月3日には距離5630万キロ、光度マイナス2.5等の明るさとなって人々を不安がらせた。世間では、これを「西郷星、だ」といって騒ぎ、赤い光のなかに陸軍大将の正装をした西郷隆盛の像が見えると言ふらす者が続出した。

明治維新史のなかで西郷隆盛にたいする評価はさまざまに分れているが、幕末の薩長連合から江戸城無血開城にいたる間の西郷の活躍は、まことに水際立っていた。大物中の大物として、歴史を一騎すめるのに偉大な貢献をしたのである。

波乱に富んだ悲劇的な生涯や、豪放であってしかも情にもろい性格などから「国民的英雄、の人気を集めた。城山が落ち、西郷が自刃したのは9月24日である。

〔写真・城山を背にして立つ西郷隆盛銅像〕



## 桜島



## 錦江湾

は冬から春先にかけておこなわれるタチウオ一本釣の餌につかうイワシ漁場としてきこえている。黒潮の流れこむ深い内湾。温帯系の魚にくわえて亜熱帯系の魚までまぎれこみ、魚種ははなはだ多彩である。穏やかな海面はレジャー釣りの絶好の舞台となるが、今月



## きびなご

ウルメイワシ科の細長い小魚

で、背の青い帯と腹の

銀白色のコントラストが鮮やかだ。煮干

しにしたり、カツオ釣

の生き餌にもつかうが、

とれたばかりの新鮮

なキビナゴはぜひ

刺身にして賞味

したい。大きな花

のように丸く並べ

て盛り付けるのは、

郷土名物料理の一つ。

ネギと酢味噌を添える。



外海の薩南海域ではほとんど一年じゅうカツオ釣りができる。写真はイワシ生餌の買付けにやってきた五十九トン型カツオ釣漁船。

# 浜へ、街へ アタックしよう

## 春期拡販キャンペーン3弾



### 漁業市場へ

## ヤマハ船外機・船外機・ドライブ船 春の大漁キャンペーン

ケロシン船外機やドライブ船などの戦略商品を核として、既存商品を含めた販売計画の完全達成が目標。キャンペーンの合い言葉は、「こんにちはヤマハです」。移動展示会や試乗会で浜や港へ積極的に出向き、ユーザーとの接触を深めてください。



### プレジャー市場へ

## ヤマハボート&ヨット チャレンジスア-

春のキャンペーンを効果的に盛り上げて、年間の販売量拡大を実現してください。そのためには、店頭フェアや街なかフェアを開いてマリン情報の提供および話題づくりと積極的に取組み、新しいマリンファン層を開拓することがポイントになります。



### ヨット普及に

## 海、大好き。 キャンペーン

いよいよシーズン開幕。街へ出て、マリムードを盛りあげ、マリンファン層を創造するキャンペーン。

(14頁の「ヤマハトピックス」を参照ください)

ヤママリニストアヒーローインタビュー

# マリニにかける情熱にくらべれば

## 煙ぞ薄し桜島山

鹿児島県垂水市・垂水マリニショップ 新福幸平社長



**薩**さつ摩ま単は人やは快男児。鹿児島県下でトップクラスのマリニストアさんというから、さぞや強く豪快な感じの人だろうと当てこんで訪ねたが、「垂水マリニショップ」新福幸平社長（32歳）のイメージはずいぶん違っていた。

絶えず笑顔を絶やさず応対してくれる、いたって物静かな人である。質問には最低必要なことしか答えない。これでは、ご本人の口から自慢話などとても聞けないだろうとおもい、ちようど居合わせたお客さんたちに水を向けて見た——新福さんって、いったいどんな人柄だと思えますか？

答えはたちどころに返ってきた——  
——若いが、ホトケさんみたいにできている。いつも温和で、不機嫌な顔を見たことがない。しかし、頑張り屋だね。他人の話を良く聞くと、面倒見が実にいい。イヤミのない男。親孝行な息子だ、等々。

関志は内に秘めて外には現わさないが、一本筋の人った「単人」というのだろうか。

# 釣りと鉄砲打ちのほかは、 経営学の本が好き



●左からサーレスマンの有馬博見さん、事務員の野元リヨ子さん、新福社長、奥さまの良子さん。奥さまは2月に中型自動二輪免許を取得した。また現在「4級ボート免許」にチャレンジ中。奥さまがバイク販売、新福さんはボート、船外機販売に専念できるよう、体制づくりを進めている。

「イカ曳き」。

錦江湾の釣りといえば、鹿児島の人にはタイ釣りとこのイカ曳きをまず思い浮かべる。それほどポピュラーで、釣師の熱中する釣りである。

垂水市には、レジャーボートオーナーたちがつくる「船友会」というクラブがあり、新福さんはそのメンバーのひとりである。この会はイカ曳きを研究するためにできたようなもので、最盛期の秋には何度も釣大会が開催されるし、会報ではイカ曳きに関する情報と資料をふんだんに交換するのである。

「垂水マリンショップ」のお客さんは、一人もれなく「船友会」の会員であり、釣仲間として新福さんに一目をおいている。と言うのは、「船友会」が毎年作成する「番付表」で新福さんはこの数年間連続して東あるいは西の横綱を張っているのだ。みな口をそろえて、新福さんを「イカ曳き名人」と呼ぶ。

身が厚く、美味で、高価な「ミズイカ」（アオリイカ）をトローリングで釣るイカ曳きは釣り方もユニークだが、使う擬餌が独特である。

エギ（餌木）またはエドと呼ぶ擬餌は、昔は魚の形に似せてつくったが、現在はエビの形が主流になった。軟らかい木をエビの形



ミズイカには抱きつくだけでなく、噛みつくやつがいる。新福さんは大きなイカが噛んだエギを証拠に見せてくれた。

に削り、それに布を張りつけている。江戸時代に島津藩士が考案して、その後こんにちに至るまで、錦江湾の釣師たちによって研究と改良が続けられてきた。鹿児島が発祥地であり、先進地である。

エギの良し悪しは釣果を大きく左右する。釣師にとっては宝物のように大切なものだ。明治時代に、ある人が、いつも好漁をするエギの持ち主に三拝九拝し、六畳と三畳からなる自分の船頭小屋と交換してもらったというエピソードが残っているほどである。

さて、「新福名人」にイカ曳きの極意を教わることにしよう。さすがに自分の得意であるだけに、新福さんはすこし雄弁になって、とつとつと語ってくれた。

「エギを自分で作る人もいますが、私は長年の経験で割り出した布の色や柄、材質を伝えて、専門の人に作ってもらいます。重要なのはこのエギの使い分けと合わせ方。」



垂水マリンショップは こんなストア

TEL. 09943(2)2765 & (2)1905

- 開業 昭和49年
- 店舗 敷地/214坪  
店舗/30坪(バイクも展示、2階は住居)  
サービス工場/15坪

●商圏

お店は、垂水市と錦江湾対岸の鹿児島市(鴨池港)を結ぶフェリーが発着する垂水港のすぐ近く。商圏は地元、垂水市を中心に、北は「東桜島(鹿児島市)」から南は「古江(鹿屋市)」まで、それぞれ約20km。商圏内人口は約3万6千人。

●販売

新福さんは、お姉さんのご主人、つまり義兄が経営する鹿児島市で有数のバイク販売店、「株オートショップ松本」で3年間、サービス技術の修得に努め、8年前に若冠24歳で独立開業した。

開業当初はバイクの販売が主力で、ボート、船外機は脇役であったが、3年ほど前から、マリン商品主力に意識的に切り換え、現在、売上の約8割がマリン商品。マリン部門だけで年間1億円近くを売上げている。

商圏には漁業需要もあるが、新福さんは開業当初よりレジャー需要(釣需要)に的を絞った販売をしている。

人気艇種は「F-17II」、「F-22」、「U-17」、「U-19」、「UW-14」で、船外機は30-40馬力を主力に、9.5-85馬力まで。

売上げの内わけは、ボート、船外機の本体販売が約6割。用品・部品の販売とサービス工賃が各2割。

●販売活動

新福さんは時間のある限り、まだボートを持たない人々を誘って釣りに出るのが、これが結果的に一番の販売活動となっている。現在のお客さまの多くは、新福さんのボートに乗ってその楽しさを知り、マイボートが欲しくなった人々である。

垂水マリンショップさんでは、年間5-6回、鹿児島市で行なわれるヤマハボート免許教室や、垂水市、鹿屋市などのマリンストアさんが合同で開催するボート免許教室にお客さまを案内する。同店ではこれまでに約200名の方々にこうして免許を取得してもらっているが、受講生みなさんと「免許」の前に、前述のようなおつき合いがあるので、マイボート意欲が強い。また、最近では、同店が独自に受講生を集め、ヤマハインストラクターの派遣を要請して開催するほどに自主性を高めている。

販売イベントは、春、夏、秋に「展示会」をそれぞれ1回開催。この中では「ヤマハ春のキャンペーン」(例年4月)が最も成果をあげている。

釣大会は夏から秋にかけて毎年3回実施するが、うち1回は「ヤマハボートフィッシングコンテスト」に参加する。

「釣り」以外のボートレジャーを普及させる目的で今年「垂水マリンクラブ」を発足。現在、会員を募集中である。新福さんは関西潜水連盟の3級に認定されている。

またさいきん垂水では水上スキーの人気が出はじめた。

垂水マリンクラブ 発足  
会員募集中  
82



●広い店頭スペースを持つ「垂水マリンショップ」。店内は整然としており、船外機はほとんどフルラインアップを展示。釣り談議をしにくるお客さんの出入りがにぎやかである。



二十四歳で独立し開業した時、幸運にもある知人が応援してくれて、九十坪の土地と十五坪の店舗を月一万円で借りることができた。その当時、新福さんは奥さんの良子さんと二人で、何年経つたらこんな風な暮らしにしよう、

「飛んでる鳥が落ちる時の爽快感がたまらないのですよ」「優しそうな新福さんにはちよつと似合わないようですが」「鉄砲は一気に打ち落とす。それからすれば、徐々に弱らせてから死なせる魚釣りの方がもっと残酷でしょう」「なるほど、なるほど……!」

イカ曳きは夜間にするもので、二・三種のエギしか使わない人もいますが、自分は十種以上を月の明るさに応じて使い分けします。ひと口にいえば、海が明るい時は明るく見えるものを、暗い時は墨っぽいエギを使います。イカは、まずあの二本の長い足というか手で、エギに触れてきます。いきなりとびつかないのです。竿を持つ手にこれを感じ取るのがある程度の経験が必要ですが、初心者はこの時、すぐ引いてしまうので釣りそこねる。この時、エギをいっぺん戻してやる戻し方がコツ。そこでイカはエギに抱きついてくるのです。子供の頃、カマス釣りの名人といわれた建具職のお父さんが漕ぐ船にのり、釣りをするのが楽しみだった。いま、第一の趣味が釣りで、その次は鉄砲だという。

「釣りと鉄砲打ちのほかには、遊びは何もやらない。」「ヒマがあると、トヨタの経営なんかといった類の本をよく読んでいます」と、横から奥さんが口数の少ない新福さんに代って解説してくれた。

新福さんは、なかなか勉強家である。二級ガソリン自動車整備士をはじめ、二輪車安全運転推進委員会の指導員、そして、鹿児島県船外機整備士などの資格を次々と取得、いまはディーゼルエンジンの勉強をしている。

店はこのな店をつくらう、と将来の生活設計をよく語り合ったという。何事も夫婦二人で確かめ合い、協力して、しっかりと目標を見つめながら、一歩ずつ前進してきた。きよねん約二百坪の土地を買い、建坪三十坪の店舗(二階は住居)を新築した。七月にお客様を招待して盛大な披露をしたが、このことも、八年前に話合った目標どおりだった。「これからはマリナーづくりです」垂水、桜島方面には、まだマリナーと呼ぶにふさわしいものがない。「最初から立派でなくていいから、自分がこれを初めにやりたいのです。いま土地を探しています。お客さんがそれを望んでいますし、ストアとして効率の良いサービスができることまちがいないし、です。当初一、二年の営業はユニツクの償却ができて、若い従業員一人分の給料が出せれば上々だと考えています」



# 経営者の金銭感覚をカラダにたたきこむ

株日本フランチャイズセンター代表 田中 直隆

会社は、金という食べ物を食べながら成長していく生き物である。小さな会社を育てる過程では、いくらでも金がかかる。ちようどザルに水を入れるような気持ちで金をつぎこんでいかなないと、土壌ができないのだ。

筆者の場合も、独立してしばらくの間は金が湯水のごとく出ていった。小さな事務所だがホウキや洗面具から買わなければならない。設立費用や、事務所の賃借料、秘書の給与、生活費と使っていくうちに、大切な出発のための資本金が、日々どんどん流れるようになって出ていく。四か月余りですっかり使い果たし、まっ青になったことがある。

金というのは、想像以上に出ていくもの、そして想像以上に入ってこないものである。そして、金の流れの絶えたとき、会社はつぶれる。

どんなに苦しくても金の流れを絶やさず、自分の事業を守っていくためには、サラリー

マン的金銭感覚から脱皮して経営者としての金銭感覚を自分の内面に確立しておかなければならない。ひと昔まえマスコミが「脱サラ」をさかんに話題にしていたが、その頃「脱サラ」を試みた人のうち、初志を貫徹して、現在ほんとうの自立を獲得したのは百人のうち何人いるだろうか。事業に成功しているのは、サラリーマン時代に会社のなかで、切れば血の出るような金を取扱う知識と技量をたくわえ、経営の感覚を磨いた人にかぎられる。そういう人は、企業のなかで百人のうち何人いるだろうか。

資本主義社会の商売は、金との戦いである。

経営者はカラダで金の厳しさを学ばなければならない。経営は実践である。実践は理屈ではなく、毎日、現実の問題として襲ってくる。ひとつひとつに対処して解決しなければ、一歩も前進できない。

いちど倒産をして再起した友人がいた。二

代目であったので、ほんとうに自分が苦勞して金をつくった経験がなかった。二代目社長に就任してまもなく父親が他界し、創業者の支えを失い会社は倒産の憂き目を見たが、彼は、三十五歳で初めて金に追いまくられ、金に苦しんだ。他人に頭を下げ、部下に裏切られ、この世の修羅場を踏んだ。坊っちゃん育ちの好人物だけに、その姿は痛々しくみじめであった。

親から譲渡された財産も自分の資産もすべて失ってしまったから、彼は自分の足で立つことを決意したのである。鬼のように昼夜働いた。周囲の信用と協力を回復して、小さいながらも自分の力で会社を再出発させることができたが、それまでに二年余の歳月が流れた。

再起した友人に接して、私は彼の変わりように驚いたものである。イエスとノウをはっきりさせ、言いにくいこともすっぱりという人に

# 小さな会社を経営する秘訣

なっていた。単なる人情や心情だけで金をうごかすことは、一切やらなくなった。人の好きそうな顔には、一種のすこみと迫力がくわわった。

社長は、自分で稼がなければならぬ。事業によってしか、一円も手にすることができなくなったことを自覚することから経営は始まる。社長と社員では、手にするお金の性質が全然異なることを肝に銘じておく必要がある。周囲から社長！ と呼ばれるたびに、一声数千円はかかっているのだと思うほうがよい。その責任と権限を履行できる人、つまりそれだけの恩恵を周囲におよぼすことのできる人だから、社長と呼んでもらえるのである。

その努力と忍耐が大きいほど、達成の喜びはひとしおである。人生のリスクを賭けて出発した小さな船が、やっと目的の港へたどりついた喜びに似ている。なるほど商売とはこうであったのか、金儲けとはこうなのか、理屈では表わせない感覚——小さな悟りである。経営の厳しさと喜びは、全身で味わうものだ。山の頂きをきわめた人だけが、その山からの景観を語れるのと同じである。

大阪の郊外で、生れて初めて店舗(文具店)を開いたときのことは今でも忘れられない。開店の日は朝からドキドキしていた。見知らぬ大阪へやってきた東京人が何も知らずに店を開いたのである。朝九時に開店したが、誰もこない。内心、失敗かなと不安になる。十二時を過ぎたころ、数人がドヤドヤと入ってきた。みな見覚えのある顔である。おなじ商店街の御主人たちが、開店祝いと景気づけにつれだつてきてくれたのだ。私は、心からそ

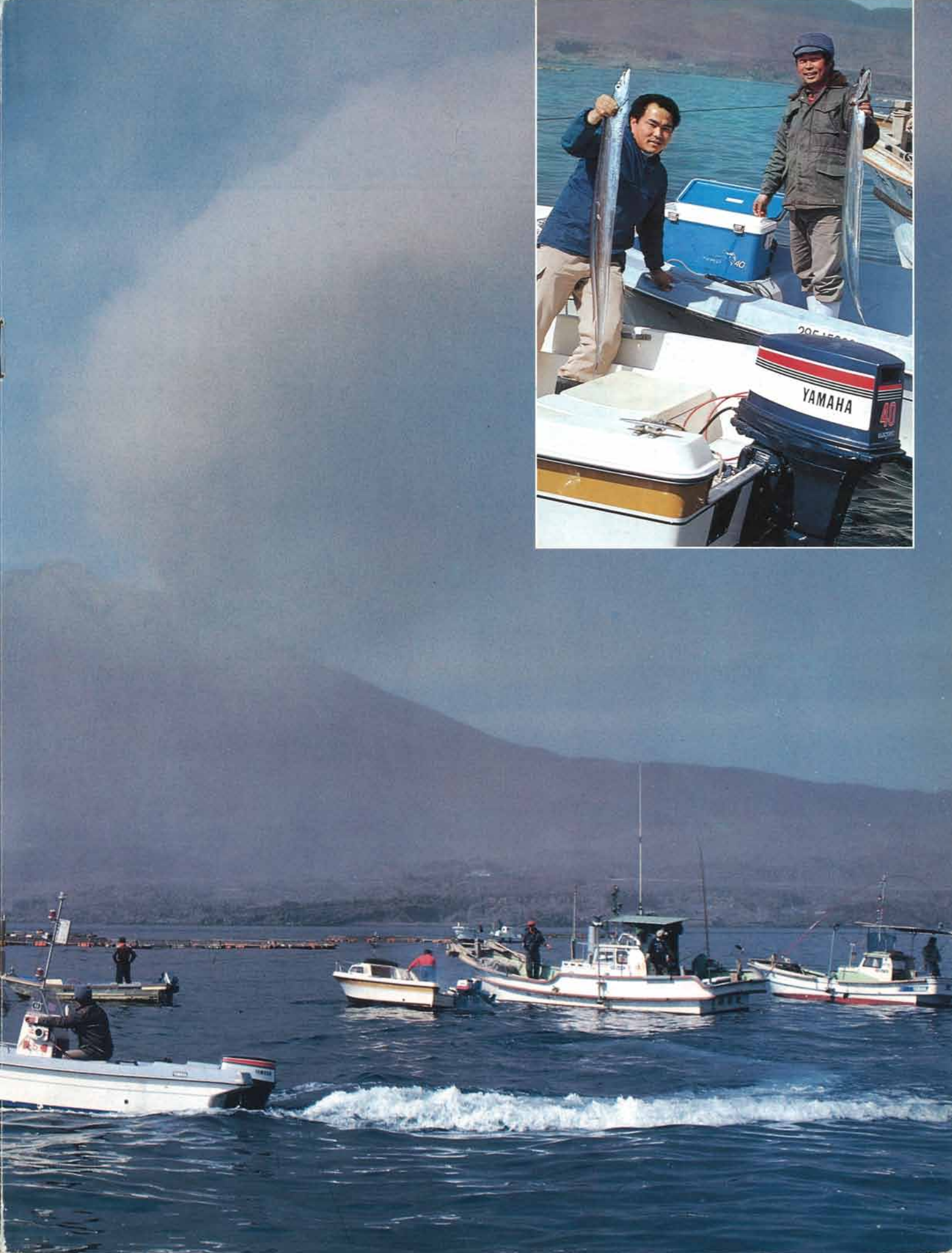
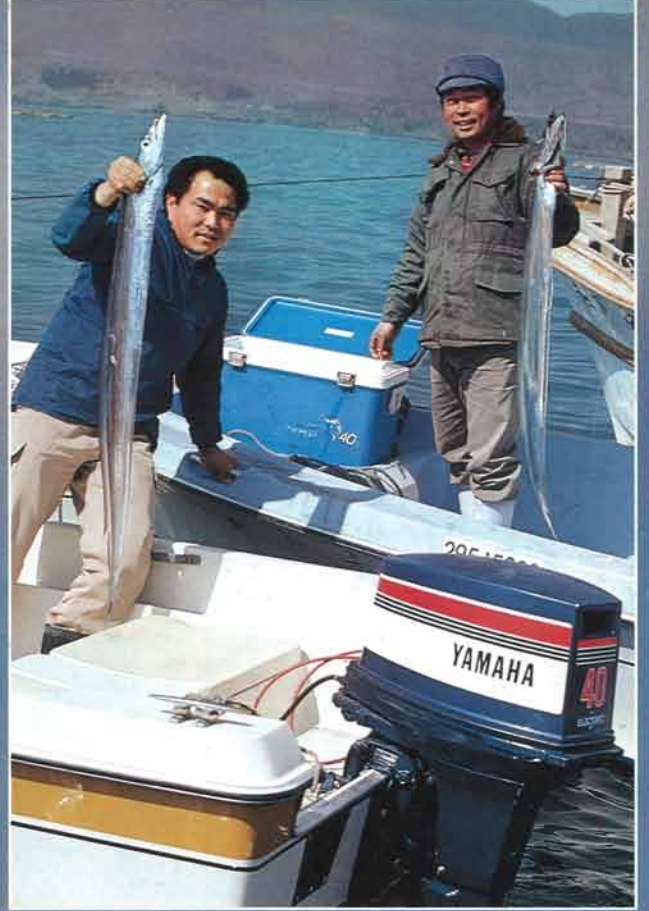


の人たちに感謝し、これでやっていけるといふ自信を初めて持った。

実績もなければ担保もない人に、誰も金を貸さない。それから、自分さえ良ければよいという利己的な人は、なかなか経営者にはなれない。他人の信用がうすいからである。

借金の苦勞はつらいものである。しかし、借金を上手にすることは、社長業の最大の仕

事と言えるので、生きた借金は企業にとってエンジンを円滑に運転させるオイルの役目を果たしてくれる。「借金の哲学」を確立してこそ、経営者も一人前なのである。しかし、それは、体験することによって自分の血肉と化した金銭感覚と、それによって自分の周囲につちかかってきた信用——この二つのうえに花を咲かせるのである。





# いま錦江湾では

## タチウオ釣り

薩摩半島と大隅半島に抱かれた鹿児島湾を、錦江湾ともいう。夕映えに赤く染まる桜島をバックに、金の砂をまいたように輝く大湾を目のあたりにした人なら、鹿児島県人がこの海を受けてそう呼んでいることが納得できるだろう。

錦江湾で釣れる魚は種類が豊富で枚挙にいとまがないが、とくに湾北部に釣り場が多い。レジャー釣りがたいへん盛んで、漁場では本漁師さんにまじってセミプロ、アマチュアが仲良く釣り合戦を展開している。

垂水沖は好ポイントのひとつ。春はクロダイ、イシダイ、イサキ、夏はキス、サバ、アジ、秋はハマチ、ブリ、ミズイカ、マダイ、冬はアラカブ、ヤリイカそしてタチウオ。

冬から春先にかけてのタチウオ釣りは、タイの乗っ込みがはじまるまで続く。近海カツオ釣りのエサ場で知られる海潟港の沖では、ハマチ養殖のイカダにロープを張り、それに船をもやって釣りをしていた。

ワイヤーハリスに、餌はカタクチイワシの一尾掛け。一日に30尾以上釣る人もいるが、

レジャーの釣り人は数もさることながら専ら「型もの」狙いだ。

「3月は大きいのが釣れる。きのうは仲間の一人が1.7〜1.8メートル、優に5キロはあるのを釣ったが、そんなのが一本釣れたら、それで満足だ」釣り人は、太っ腹でこわす。噴煙ふりそそぐ春の海で、ひながマイボート釣りを楽しむのである。





# 「確かな船外機」を追求する

## 「かすかず」の安全設計

安全な船外機とは——もちろん、すべてのパーツが正確に作動して、しかも十分な耐久力を発揮することが第一の条件です。高品質・高性能の製品にそなわる「信頼性」こそ「安全性」にほかならないので、「安全性」とは設計ならびに製造の基本条件の一つなのです。

ところで、さいきん船外機の安全性がこれまで以上に強調されるようになりました。これは、商品として不可欠の性能と品

質を満足させたいという、なおさらに、これまでは止むを得ず危険であると見なされてきた部分にがんばりも十分な安全性を確保しておきたいという、強い意欲を示しています。それは、船外機の大型化がすすんだことと、レジャーを中心に船外機ユーザー層が広汎にひろがったこと、この二つの事情を背景としてメーカー、ユーザー双方から「安全性」にたいする関心が高まってきたからです。

## 「安全回路」を組みこんだ——CDIシステム登場

すでにご承知のとおりヤマハ船外機は一七四年にCDIシステムを導入しました。CDI (Capacitor Discharge Ignition) は、その名のとおり大きな点火電圧をきわめて短い時間に急速放電することのできる点火機構であって、無接点バルサーやメンテナンスフリーなど多大の画期的な技術進歩をもたらしました。

しかし、システムの中核であるCDIユニットに内蔵されている機能は、点火作用だけに限られているわけではありません。その潜在的な能力は果てしなく大きいのです。

CDIユニットは、複数個のP形半導体とN形半導体を色々なバッテリーに組合せて接合した、いわゆるダイオードやサイリスタで構成されているのですが、コンバクトで軽く、驚異的に大きな情報処理（電氣的な整流・検波・増幅など）をおこなう力を発揮します。

そこで、このCDIユニットに「安全システム回路」を新たに組み込んだニューデザインが登場しました。それは、過回転防止装置およびオーバーヒート警告装置のための新回路です。

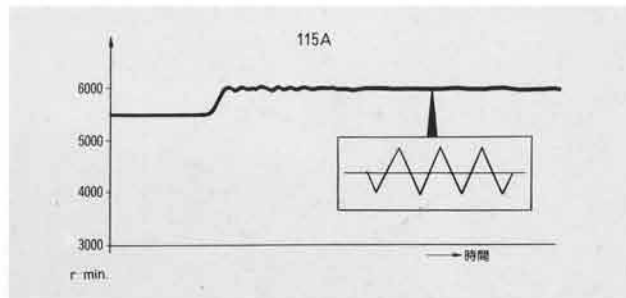


●CDIユニット

ちがえたりすると、エンジンが過回転状態になります。過回転はエンジン本体の寿命を縮めるのです。

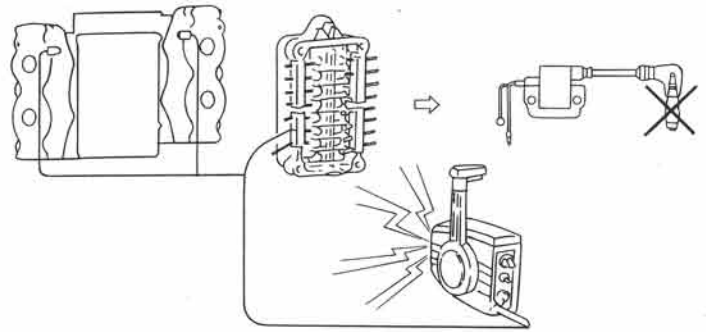
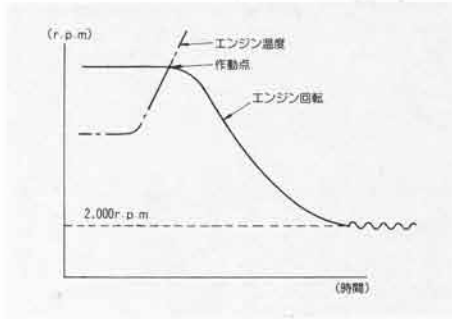
この過回転を防止するために、ヤマハ船外機ではCDIユニットに過回転防止回路を組み込みました。

過回転防止回路がバルサーコイルの電圧を検出して過回転をキャッチし、チャージコイルからイグニッションコイルにおくられる電流を短絡して失火と点火をくりかえさせ、規定値を超えるエンジン回転を防止するというしくみです。ヤマハ船外機115Aの



### ■過回転防止装置

ボートが波の上にジャンプしたり、キャビテーションが起きたり、プロペラの選定をま



場合、5850〜6350回転でシステムが作動するように設定されています。

### ■オーバーヒート警告装置

冷却水取入口の閉そくや水量不足、あるいはその他の理由でエンジンに過度の温度上昇が起きたとき、リモコンボックス内のブザーが鳴ると同時にエンジン回転が徐々に低下するという警報システムです。音による警告と、ドライバーの体感に訴える二重の警告装置ですが、つぎのような順序でシステムが働きます。

- ① シリンダヘッドの温度が規定値を超えると、ヘッドに埋めこまれているサーモスイッチ(バイメタル)が感知してCDEユニットに伝達する。また同時に、サーモスイッチがオンになることによってブザーが鳴り出す。
- ② オーバーヒート警告回路が作動すると、バルサーコイルがイグニッションコイルへの電流を断続させて、失火と点火をくりかえし、エンジン回転数を低下させる。
- ③ エンジン回転数は、2500回転まで低下して、それ以上には上らない。(2500回転以下では正常に点火する)
- ④ 過熱状態が続いているあいだは、サーモスイッチが働いてブザーは鳴りつづける。
- ⑤ 温度上昇の原因を究明して異常状態を取りのぞくと、エンジンの回転は正常にもどる。

\* \* \* \*

エンジンの正常運転を維持するうえで過回転防止装置ならびにオーバーヒート警告装置は、たいへん重要な働きをしています。そして、これ以外にも、運転者の不注意による事故を防止したり事故の時に運転者を保護するために、ヤマハ船外機にはいくつかの安全設計がほどこされています。

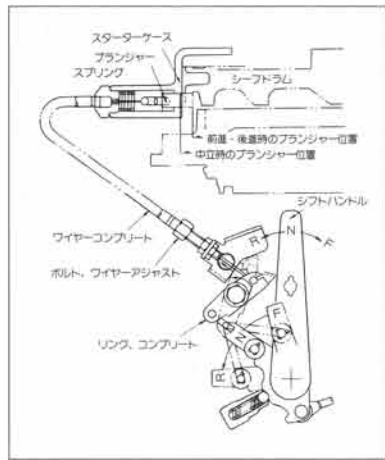
### ■スターター安全装置

エンジン始動の際の暴走を防ぐ安全装置です。モデルによって機械式と電気式の二つの方式にわかれます。

#### (機械式)

シフトハンドルを前進(F)または後進(R)にシフトすると、ワイヤーコンプリートのイ

ンナーワイヤーを介してブランチャーをシードラム側に押し出してシードラムを固定し、スターターを引けなくします。中立(N)の位置ではブランチャーが引つこんでシードラムがフリーになり、スターターが引けるようになります。



#### (電気式)

ブッシュ・オン式のニュートラルスイッチが、エンジン本体のクランクケース底部およびリモコンボックス内部に取付けられています。ニュートラルスイッチはメインスイッチとスターターモータをつなぐ回路の途中に設けられていて、シフトが中立位置のときにかざりシフトハンドル先端のカムがニュートラルスイッチのブッシュ・ポタンを押して、スターターモーターの回路をつなぎます。

### ■キルスイッチ

運転者が転倒や落水をしたときにエンジンを緊急停止させる装置で、①エンジン本体直結式、②別パネル式、③リモコンボックス内蔵式の3方式があります。



リモコンボックス式



別パネル式

### 安全装置の適用状況

■過回転防止装置	40F、40GK、75A、85A、115A、140A
■オーバーヒート警告装置	同上
■スターター安全装置	(機械式)20〜40馬力のマニュアル仕様 (電気式)25〜140馬力の電動仕様
■キルスイッチ	25〜140馬力の電動仕様(リモコン仕様)に装備。また55AEM、75AEMにも装備。
■フライホイールローターカバー	40F、40GK、115A、140A
■ニュートラルロック	702型リモコンボックスに装備

### ■フライホイールローターカバー

フライホイールに保護カバーを取付けました。点検や調整、試運転の時に作業者がウツカリしてローターに触ってケガをしないための配慮です。



### ■リモコンレバーのニュートラルロック

リモコンボックスのシフトハンドルにニュートラルロックが装備されており、ハンドル下側の突起物を握りこんで操作しないと、前進(F)にも後進(R)にもシフトできないしくみになっています。



# 海藻

どうやって採るか、  
なぜ採るか？

辻井 善彌

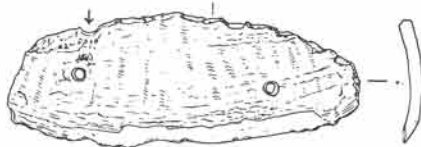


## 貝器

日本人は、採集漁労生活を送っていた原始時代から海藻を食べていた。このことは、海藻類が貝類と同じように漁獲しやすく、また貯蔵のきくことなどから容易に想像できるが、現在、それは考古学の成果のなかで実証的に明らかにされている。

ではどんな道具を用いて海藻類を採取したのであろうか。もともと海藻は素手でも採取することができるので、とりたてて道具を必要としな

かったかもしれない。が、弥生時代の遺物のなかに、採藻用具と思われる貝製品が見受けられる。例えば神奈川県三浦半島、海蝕洞穴から出土した貝庖丁や貝刀がそのひとつである。これらの貝製品は主に稲など陸上の植物を刈り取るのに用いたと考えられているが、あわせて海藻類の採取にも使用したようである。といっても、それを実証する裏づけを持ち合わせているわけではない。ただ次のような事例からそのように想像するのである。



包丁形貝器(神奈川県間口洞穴)

## 鉄具の使用

現在では鉄製の採藻用具が広く用いられているが、それらはいくつかから使用され出したものか、テングサの採取具の例



「カンガラ」の製作(隠岐島前船越)

をなしたと伝えられる。

また隠岐島前ではテンヤスと呼ばれる鉄具を用いるが、これはテングサの値が出てきた明治三十年頃から使われるようになったらしい。

このように、鉄製のテングサ採取具の使用は意外と新しく、せいぜい江戸時代までさらのぼるにすぎない。その時期はテングサを原料とする寒天(トコロテンの乾物)が創案され、その消費地が拡大してテングサの需要が高まった時とほぼ一致するのである。

長崎県対馬の鰐浦ではフノリの原料となるオゴノリの採取に、庖丁を曲げたような鉄具を用いる。これは大・中・小の三種類があり、オゴノリの大小によって使いわけられる。このようなきめ細かな採取法は鰐浦の人びとの採藻にかける熱意がもたらしたものであろう。フノリは江戸時代中期に綿織物産業が盛んになるにつれ、その需要が高まった。恐らくフノリの原料となる対馬のオゴノリ採取もこの頃から盛んとなり、オゴノリ採りの鉄具もその頃から用いられたものであろう。

## タライ船

山形県庄内浜の女衆は働きものである。岡仕事を分担するだけでなく、海藻を主とする磯物とりも彼女たちの仕事になる。岩ノリ、アオサ、イギス、モゾク、テングサなど、季節ごとに磯に出て採取する。なかでも、

女忍者よろしく、波をさけつつ磯から磯へと渡りあるく冬の岩ノリ採りは、命懸けの仕事である。彼女たちは、徒歩で渡れない磯にはハシゴを掛けて渡ったり、白波の立ち騒ぐ磯へはダンピツと呼ばれるタライ船に乗って渡る。タライ船というと、佐渡の小木や能登の小木のものによく知られている。佐渡のタライ船は一説によると明治の



島渡りに「ダンピツ」というタライ船を使う(山形県庄内浜)

でみてみよう。

潜水してテングサを採取する場合は道具は要らないが、船上から採取する時には、テングサとかテングサカキなどと呼ぶ鉄製の道具を使うのである。神奈川県三浦半島では櫛状の鉄具を長い棹の先につけて、これでテングサをかき取っているが、この鉄具は天保九年に七十四歳で死去した城ヶ島の石橋弥市郎が考案した。彼は、この鉄具の普及によって財



テングサカキ  
(神奈川県三浦)



テンヤス  
(隠岐島前)

# コックピット夜話 貝寄風

(かいよせ)

聖徳太子の命日をお祭りする聖霊会のこと。現在では四月十日前後に大阪は灘波の浜辺に吹きつける強い西風を貝寄風といい、打ち上がった貝を造花に飾って海の守

り神住吉神社にお供えするという。貝寄風は合武三島流船載用法

や「翁草」など江戸時代の本によくとりあげられている風名なので、何も大阪に限った呼び名ではない。

やさしい呼び名に似合わない激しい風で、風向も「船載用法」でも「多分西風である」とわざわざ断わっているくらいだから、一定ではなく、

とかく四月十日前後に、色々な方向に開いている浜辺に貝を打ち寄せる

強風のこと。ところによっては南風であったり、夜ことの南東風であったりする。

強風の吹き荒れた後の浜辺には、アサリ、ハマグリ、マキガイなどに混じって小さな牙のようなツノガイ、華麗なチリバボタン、マニキュアを知らないころのギャルのツメ先にも似たサクラガイなども見つかるころ、浜辺の春はまさにたけなわである。



初め頃、味噌樽を半分に切ったものを船に利用したのがそもそものはじまり。庄内浜のタンビツはいつ頃から使用されたものか聞くことはできなかったが、耐久性があること、収納が容易であること、持ち運びに便利であることなどから、島渡りの船には欠かせないものである。タライを船に利用することは誰の発想であったかは定かではないが、それは磯で海藻をとる女衆の知恵が産んだもののように思われるがどうであろうか。

(日本民具学会関東地区委員・相模民俗学会会員)

## 春一番の展示会、購入契約相次ぐ。奄美大島(名瀬市)の株小松モーターズさん

鹿 児島一のマリニストア「株小松モーターズ」さんでは、三月六日〜八日までの三日間、恒例の「ヤマハ春の大展示会」を開催。今年も大きな成果をあげました。

ボート、和服、漁船、船外機、ディゼル、そしてバイク、発電機まで、ヤマハオール商品の販売店である同店。マリニ需要の八割はレジャー需要で、ひと足早く迎える春先から初夏までがその最需要期。これまでも、その立ちあがり時期にタイミングを合わせて展示会を開催し、多くの契約を獲得するとともに、市場ムードの盛りあげを図ってきました。

同店のメイン市場である名瀬市ではここ数年、ボート免許を取得する人が多く、とくに昨年の夏以後に同店を窓口にこれを取得した人々は百五十名にものほりました。そこで、今回の展示会は、市内及び周辺町村に宣伝カーを走らせ潜在客に告知するとともに、免許合格者にDMを発送してご案内。三日とも好天に恵まれ、来場客も多く、ヤマハ商品が賑やかに展示された会場では購入契約が相次いでいきました。



「FISH 22 II O/B」, 「FISH 15 CUSTOM」, 「ケロシン船外機(40GMK)」, 「ヤマハ漁船の新しい仲間(YDX-23-1B)」, 「超小型、軽量、高出力ディゼル(MD340K)」そしてバイクでは新発売スクーター「サリアン」……新艇、新機、新車を中心に、市場に合ったヤマハ商品が一堂に展示された会場。

「春の展示会は店にとって重要なイベント。目標を超える契約をいただきました」と語る小松茂吉社長と奥さま。



## 「海、大好きキャンペーン」の成功を!!

マリンスイーズを目前にして、ヤマハではヨット普及活動の一環となる「カモン・セイラー! 海、大好きキャンペーン」を展開しています。

これは、マリファン創造活動の第1弾としてくりひろげるキャンペーンであり、各マリストアさんの活発な動きを大いに期待します。

### ●ターゲットは15才~20才代の若者たち マリムードと話題づくりでアタック!!

これまでのヨッティング・ルーム、およびヨット教室の受講生募集活動はシーズンに集中していたり、断片的なものも多く、加えてマスコミに頼っていました。今回のキャンペーンはこの点をあらため、早期シーズンからの展開、継続的活動、地道なユーザーとの接点の開拓などを目的としているのが特徴です。



### ●店頭、店外で幅広い募集活動を! マリボシエット・プレゼント

マリストアさんによる展示会、試乗会などの会場に、またお店の一部にヨット普及コーナーを設けてください。また喫茶店、スポーツショップなど、若者が集まりそうな街中でのアプローチ先をピックアップし、積極的に街中へ出ていきましょう。この期間、ヨッティング・ルーム、ヨット教室の参加申し込みをされた方にプレゼントする「マリボシエット」も有効に使ってください。



### ●ヤマハジュニアヨットスクール

## 頑張れ! 海っ子、風っ子。

### 第3回修了記念ヨットジャンボリー近づく

誕生以来4年目を迎えるヤマハジュニアヨットスクールでは、5月5日の子供の日を前に年に一度のビッグイベント「修了記念ヨットジャンボリー」を静岡県浜名湖で開催します。

「ヨットで育てる心とからだ」をテーマとして、1年間にわたる教程を無事修了した元気なチビッコヨットマンは187名。葉山、浜名湖、琵琶湖、福岡などの各会場から浜名湖に集まり、1年間の総決算をするものです。

今年は、1年目のベーシッククラス、2年目のマスタークラス、3年目のエキスパートクラスと3クラスが勢ぞろいして、5月2日、3日の2日間にわたり、「ヨットレースにパーティー」などの楽しいスケジュールをおくる予定です。



### ●南西諸島ビッグフィッシングツアー無事終了

## 本場で笑顔のビッグファイト!

昨年のヤマハ「ボートフィッシングコンテスト」の優勝者のうちから、抽選でみごと南西諸島ビッグフィッシングツアーの金の魚を射とめた24名の大公望たちが、このたび無事ツアーを終えてまいりました。

別掲にあげた24名の方たちは、56年12月1日の抽選会により選ばれたもので、去る3月11日に鹿児島を出発、屋久島「石落の舎」をベースに、本場のボートフィッシングでビッグファイトを満喫されました。北は北海道から南は九州まで、フィッシングコンテストの優勝者となって腕も天下第一品、次々とあがる大物にさすがと思わせるシーンの連続、もう一度参加したい! という方も多く、早くも今年のフィッシングコンテストへ熱い期待をかけていました。



### ★'81ヤマハ ボートフィッシングコンテスト・南西諸島ビッグフィッシングツアー当選者

■北海道地区/岡田清美様/岡昇様/関口照夫様 ■東北地区/秋元信成様/斎藤千代蔵様/森克美様 ■関東地区/名倉武様/原田康様 ■中部地区/沖村勝保様/河合孝治様 ■関西地区/柴田日出夫様/太田喬様/尾川賢二様/足立頼正様 ■西日本地区/石富卓夫様/宮崎博様/菊地等様/三谷祥様 ■四国地区/白井誠様/塩見末広様/東条猛様 ■九州地区/園田正勝様/平野藤男様/永富芳様 (以上24名)

## さらに、充実！ ヤマハドライブ船

すぐれた機動性と経済性が大好評のヤマハドライブ船ラインナップに、さらに3船種が新登場しました。あらゆる面で一層使いやすい船となっています。あなたの漁場にあわせて最適の船型をお選びください。

でっかく積める幅広船型、しかもスピードアップ

**YDW-27-OC**

近日発売



広く、長く、フラットなフロアは、ヤマハ和船W-27FAの基本性能を十分に生かしたものです。さらに網がかりの少ない大型ガンネル、使い勝手のよい棒タイプ保留金具などを採用し、機能性をグレードアップしました。

●全長…8.24m ●全幅…2.08m ●全深さ…0.77m ●総トン数…2.45t ●最大積載量…0.87t ●艇体重量…1.03t ●搭載エンジン…D220(58馬力)

ハイスピードを追求したゆとりの船体

**YD-29-OC**

近日発売



ヤマハドライブ船のなかで最大の積載量を誇るゆとりの船体が自慢。しかも、大型ながらもハイスピードを追求し、経済性、耐久性ともに高めました。

●全長…8.70m ●全幅…2.10m ●全深さ…0.80m ●総トン数…2.58t ●最大積載量…1.24t ●艇体重量…1.03t ●搭載エンジン…D220(58馬力)

## 大漁の願いをこめて ヤマハ和船

ベストセラー艇W-19FA-5をフルモデルチェンジ  
次代をになう汎用和船のエース

**W-19-CF1/CF5**



写真はCF5型

W-19FA-5を、より高性能にフルモデルチェンジしました。イクスなし(CF1)とイクス付(CF5)の二仕様があります。凌波性、高速旋回性、風流れ特性を向上したほか、すみずみまで使いやすさを重視して設計しました。まさに、これからの大漁をになうにふさわしい艇として生まれかわって、デビューしました。

●全長…5.79m ●全幅…1.63m ●全深さ…0.65m ●総トン数…1.01t ●艇体重量…260kg(CF1)/275kg(CF5) ●最大積載量…600kg ●最大馬力…30PS ●定員…5名 ●航行区域…限定沿海

W-27FAを一層洗練させた  
刺網兼用養殖和船

**W-27FA-5**



全国汎用和船として定評のあるW-27FAをベースに、刺網作業を考慮して数々の改良を加えました。特徴はフロア中央部の大型イクス、両サイドを物入れとした三連ハッチ仕様、新工法のクローズドガンネルなどです。

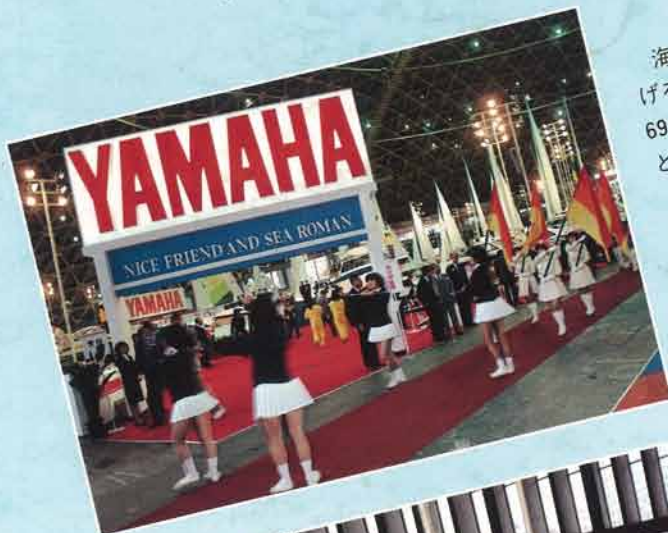
●全長…8.20m ●全幅…2.08m ●全深さ…0.77m ●総トン数…2.46t ●艇体重量…620kg ●最大積載量…1.36t ●最大馬力…75PS ●定員…11名 ●航行区域…限定沿海

# 海をあなたに

# '82 Water Season Opens!

**報告** 第21回東京国際ボートショー 3/24~3/28  
 第1回神戸国際ボートショー 4/1~4/4

海のシーズン開幕を告げるボートショー。東京会場の入場者は42,000人、69,000人、そして新しく誕生した神戸会場は42,000人と、マリレジャー時代の高まりをまざまざと示しました。ことしヤマハは、釣りの機能を満載したフィッシングボートFISH-22II/Oをはじめ斬新なスコウタイプのディンギー、本格的なシングルスケル、また船外機ではプレジャー志向のヤマハケロシン(灯油)船外機40GEKなど、衝撃的なニューモデル群を登場させ、これからの販売戦略商品のラインナップにくわえていただきたい重要商品です。



●新しい波、スコウタイプのディンギー  
 YAMAHA-SCOW15  
 Sea Spider



●プレジャー志向のケロシン(灯油)船外機  
 YAMAHA 40GEK



●インボード・アウトドライブの本格派 FISH-22II/O



●2分割式の凶南型  
 YAMAHA SINGLE SCULL



ヤマハ マリンストア ニュース No.27 ●発行 57年4月15日 ●発行人 小宮 功 ●発行所 ヤマハ発動機株式会社 〒438 静岡県磐田市新貝2500 ☎053832111

訂正 前号で紹介したケロシン船外機YAMAHA40GMK(GEMK)の仕様諸元のうち、「燃料タンク容量」を、右記のように訂正いたします。…燃料タンク容量⇒K:18ℓ(G:6ℓ)